

平成25年度第1回川崎区区民会議すこやか・共に生きる部会摘録

日 時：平成25年4月25日（木）午後6時30分

場 所：川崎区役所7階会議室

出席者（敬称略）

委員 6名

石渡勝朗、新井トキ子、小泉忠之、鈴木真、高橋義光、深澤香織

参与 0人

傍聴 0人

1 開会

(1) 事務局

- ・ 会議の公開、会議録の開示、会議の記録、広報としての写真撮影等の説明
- ・ 配付資料の確認
- ・ 副区長あいさつ
北沢副区長（平成25年4月1日付で就任）のあいさつ
- ・ 事務局人事異動の報告（平成25年4月1日付で赴任した新任者の紹介）
川崎区役所企画課 山川課長 補佐、唐澤係長、柘宜職員
- ・ 区民会議運営補助委託業者紹介（平成25年度委託業者）
株式会社カイト 企画事業部 市川（岩下代理）

(2) 部会長あいさつ

2 議題

(1) 報告事項

ア 今後の審議スケジュールについて（資料1）

資料1に基づき、今後の審議スケジュール案が事務局から示され、承認された。

(2) 審議事項

ア 予防接種に関わるアンケートについて

資料2に基づき事務局から、前回までの討議内容、鈴木委員や関係部局との調整を踏まえた予防接種に関するアンケート調査の実施目的、今後のスケジュール、対象者や配布・回収方法等の実施案、項目案が示され、討議した。

資料内容に追加された説明

- 資料中、3の対象者の小・中学校名が空欄になっているところは配布対象の学校が未定の地域であり、現在川崎市PTA協議会からの選出委員である秦委員が学校と調整中。調整でき次第、配布開始予定。

討議結果

- 実施目的の文章の中に、医学的観点から予防接種の重要性を伝え、今後の接種を促すような文章を入れる。文面については事務局と保健所で調整する。
- アンケートの配布対象学校については、秦委員に一任する。
- 接種していない理由の「接種を考えていたが時期を逸した」の表現を変える。
- 予防接種の情報入手先の選択肢に「川崎市子育てガイドさんぽみち」と入れる。
- 望ましい情報入手方法の設問の選択肢で、保健所の現在の正式名称である「保健福祉センター」の記載を入れる。

主な意見

小泉委員 調査票の配布対象は地域のばらつきが無い様にできると良い。既に決まった学校とのバランスを踏まえると、個人的には小田小学校、田島中学校などで配布できると良いと思う。

鈴木委員 予防接種は年度で実施内容も変わっている。川崎市はMRワクチンの接種率が市内でもワースト上位という問題意識があったが、この予防接種は平成24年度で終了した。何のワクチンの接種率を高めたいのか、目的の絞り込みが必要だ。子宮頸がん予防ワクチン、日本脳炎などがターゲットになるのではないかと。

事務局 接種が義務付けられているものと、任意のものとの未接種となる原因の傾向を掴み、今後の啓発活動につなげるというねらいもある。

深澤委員 私の娘は現在中学1年生でMRワクチンは第3期にあたるが、接種していない。各予防接種の接種状況については学校の保健室に提出している。

子どもが小さい時は時間もあれば、通知もしっかり来るので接種率が高いが、小中学生になると親も子も忙しくなって接種率が低くなるのではないかと。

事務局 3種混合の予防接種については、どこの段階で途切れている傾向があるのかなども把握したい。

深澤委員 学齢期前の予防接種の内容やスケジュールについては母子手帳にも掲載されている他、『さんぽみち』（川崎区子育てガイド）にも表で掲載している。出生届や転入届の際などに配布しているので、かなりの家庭に行き渡っているはずだ。

新井委員 その母親がどれだけきちんとそれを見るかが問題だ。
石渡部会長 実施目的の中に医者立場から予防接種の重要性などをアピールする文章が入れられると良いのではないかと。また、虐待等で接種していない場合をうまく抽出できるような設問方法が考えられないか。

子どもを地域で支える、子どもの生きる力について（資料3）

資料3、3-2、3-3に基づき事務局から、前回までの討議内容を踏まえた課題解決策として、地域で子どもの育成支援を行っている団体同士の情報共有や連携の促進の仕組みの検討、審議スケジュールや対象団体の詳細等が示され、討議した。

■ 討議結果

- 子どもを支える「地域」の単位は「小学校区」「子ども文化センター（中学校区）」などの小さな単位で考える。
- 地域で既存の活動団体が交流・情報交換をすることで互いを知ったり、共に「地域の子ども居場所」について考えられる場の形成を目指す。小さな連携（横のつながり）や取り組みから広げていくイメージ。
- 具体的な場やテーマの設定、参加主体や手法等について、次回以降検討していく。アイデア、具体案の持ち寄りを次回への各委員の宿題とする。

■ 主な意見

新井委員 連携への取っ掛かりをどのように持って行くかが難しい点であり、重要だ。

石渡部会長 子ども文化センターの中での行事の充実、発展、参加団体の拡大を推進してはどうか。例えば普段来ていない中学生や小学生を集める、さらにそこに高齢者や大人も集めて交流する。

民生委員や学校などにアプローチして子どもの居場所に三世代が集まり、交流が広く深まるようなイメージを持っている。そのためには、各種団体がじっくり話し、互いを知るような場を持つ必要がある。区全域で取り掛かるのは難しいので、モデル地域を設定し、できそうな地域から取り組んでいくところからはじめる。

カラーリングは田島地区で盛んだったが、区民会議を通じて大師地区にも

普及させていこうとしており、川中島総合型スポーツクラブなどで昨年から
取り組みを始めている。段階的な広げ方の考え方だ。

新井委員 ボーイスカウト、ガールスカウトなど独自に加盟員を中心に運営さ
れている団体とのつながりをどのようにつけるのか。

事務局 それぞれのイベントに他の団体が協力団体として参加したり、
ブースを出展したりする。互いに紹介しあうような場ができれば良いので
はないか。活動員の確保や広がりにもつながるだろう。異業種交流のような
イメージで横のつながりを仕掛けていきたい。

石渡部会長 連携ができれば、それぞれの団体に関わる親子が参加し、より多く
の人数の参加が期待できるのではないかな。

深澤委員 それぞれの団体の宣伝にもなるというアピールが重要だ。メリット
が感じられないとなかなか参加しないだろう。

石渡部会長 まずはいろんな団体の関係者が集まって話し合う場を作ることが
できれば面白い。

新井委員 大師の地域教育会議で多摩川の清掃活動を実施しているが、学校の
子どもたちだけでなく、ロータリーやPTA、水防センターなど様々な団体が
参加している。清掃終了後には殿町小学校で芋煮会なども開催し、良い
交流の場になっている。こういう活動の場を地域の中でつくりあげていける
と良い。

石渡部会長 東門前小学校などにも広がっている取り組みだ。学校を超えて
輪が広がってきている。

事務局 理想的にはそれぞれの団体が呼びかけあって、連鎖していく。単発で終
わらないようにしたい。

石渡部会長 居場所のない親子、現在活動に参加していない方たちに対するき
っかけづくりができれば更に良い。

新井委員 おやじ会が各学校で最近盛んになってきているという話を聞いた。
このあたりもうまく活用できると良いのではないかな。

小泉委員 先日、私の趣味でもある囲碁を通じて子どもたちと交流できない
かと、京町中学と田島中学に働きかけてみた。学校側からも好感触を得て、
今後参加者募集などしていく予定だが、子どもたちの興味がどれだけあるか
どうか。大師ではすでに30人くらい参加して、大人を負かす子が出るなど
取組が進んでいると聞いた。

石渡部会長 世代間交流から子どもの居場所づくりを進めていく。

深澤委員 私のイメージする「地域」は、田島・中央・大師の三地区よりも

小さい。例えば母親クラブや子育てグループが大きな団体を巻き込んで、身近な地域でイベントをしていくボトムアップのイメージだ。

一方、他の皆さんのお話は区全体としての横のつながりから、地域の小さな団体も全体に声をかけるような環境をつくっていくイメージの様に感じた。いずれにしろ横のつながりが広がっていくことが重要だと思う。

石渡部会長 私のイメージも「地域」の単位は小さい。一つの町会や子ども文化センターくらいの、小さな「地域」でないとなかなか具体的な話が進められないのではないかと。問題は取っ掛かりだ。

深澤委員 様々な団体の代表が集まり、意見交換をする場といっても、内容の設定が難しい。「こういうことをしたいので、手伝ってください」の方が話しやすいと思う。団体を知っていても、人を知らないとな頼みづらい。代表者同士がまず顔見知りになることだ。

以前、子どもに関する団体を集めたネットワーク会議があった。区PTA協議会、子育て団体などが集まり、私も子育て団体代表で出ていたが、区全体の話ばかりで「私たちには関係ないかな」と思ってしまった。

小泉委員 一つの小さな趣味から、共通のものを見つけてそこから始めていくのがやりやすいと思う。

新井委員 子ども会を巻き込んでいくのはどうか。子ども文化センターの運営委員会には近隣のいろんな活動団体や組織が入っている。そこをうまく活用できないか。

石渡部会長 大師地区の子ども文化センターをいくつか訪ねたが、施設によって実情がかなり異なると感じた。「子どもの居場所だから大人が入ることは絶対だめだ」といったセンター長もいた。こうなると世代間交流は難しい。子ども文化センター長を集める場、活動団体の長を集めて子どもの居場所について議論する場は決して無駄にならないと思う。「様々な組織のトップの会議」と「身近な地域での呼びかけ」の両方から進めていき、認知を広げ定着させていく。モデル地区は小さな範囲で考える。社協の会長や町内会長などに個別に集まって話しを進めたことはあるが、個別になっており、一同に会した会議を今後は地域でやっていきたい。

進め方のイメージの原案をまとめる。それを今年度の成果として目指してはどうか。見通しをその中で立てていけるものがあれば良い。小さな積み重ねを模索していく。

新井委員 楽大師で青少年指導員が昔遊びの伝承などに取り組んでいる。こうした取組を通じて連携を広げていけると良いのではないかと。やっている

ちいき だんたい と あ かくだい もさく ほうほう
地域や団体を取り上げて拡大の模索をしていく方法もある。
いしわたぶかいちょう
石渡部会長 そのためのきっかけづくりの意味でも代表者の話し合いが必要
だ。それぞれの団体の中身、活動内容を知る。その中から一緒にできること、
むす っ ぶぶん さが
結び付けられる部分を探す。

じむきょく くみんかいぎ とうぎ しもんだんたい いち じぎょう じっしだんたい
事務局 区民会議は討議・諮問団体という位置づけで事業の実施団体ではない。
そしき つく かた つ こ ていあん ねが きょうぎかい
組織の作り方などまで突っ込んだ提案をお願いしたい。協議会ではなく、
こうりゅうかい めいしこうかんかい ような けい での たちあげでも 良いのではないか。
かなら かなら かなら ひつよう
必ずしも組織をつくる形である必要はないのではないか。まず参加できる
だんたい すと ー と できれば 良いのではないか。

いしわた ぶかいちょう もくてき しゆし かつたる かんが よい あた ば
石渡部会長 目的主旨は堅苦しく考えなくても良い。新しい場を
たちあげるのではなく、今ある場を広げていく。

あらいいん こ かい どっ ち ぼ ー り やきゅう ば うご
新井委員 子ども会ではドッチボールや野球などの場があって動いている。そ
ういう ば はい さんか こ
ういう場に入れない、参加していない子どもたちをどうするか課題だ。

じむきょく ふくすうだんたい ごうどう い べん と かいさい ねっ と わ ー く か しゅうちこうほう
事務局 複数団体の合同イベントの開催など、ネットワーク化と周知広報の
きょうか おこな きぞん かつどう さんか こ かにい さんか ば
強化を行い、既存の活動に参加していない子どもや家庭でも参加しやすい場
をつくる。ともばたら かにい おや ちいき かつどう さんか こ
共働き家庭では親が地域の活動になかなか参加できない。子ども
たちだけでも地域に飛び込める場をつくっていくことが必要なのではないか。
だんたい めん ぼ ー かんゆう ば い ち
団体にとってはメンバーの勧誘もできる場と位置づける。

あらいいん まつ てき ようそ イベント になりそうだ。

いしわたぶかいちょう い べん と じゅうなんせい じゅうよう こ ぶんか せん た ー い べん と
石渡部会長 イベントの柔軟性が重要だ。子ども文化センターのイベントは
ひかくてきじゅうなんせい かん たんぱつ
比較的柔軟性があると感じる。また単発にならないようにする。あちこちで
じっげん さんかきかい ふ い み れんけい ひつよう
実現できれば、参加機会もそれだけ増える。その意味でも連携が必要だ。

う がいこくじんしみん す しりょう 外国人市民も住みやすいまちづくりについて (資料4)

しりょう ちと じむきょく かい がいよう く やくしよかくまどぐち ひ ありん ぐちようさ
資料4に基づき事務局から課題の概要、区役所各窓口へのヒアリング調査
けっか がいよう しょうさいとう しめ
結果の概要、詳細等が示された。

■ 討議結果

- ・ 次回以降の会議で具体的な課題解決策を検討していくこととした。
- ・ 区役所の危機管理担当が、現在外国人向けの防災訓練の実施を検討している
ことも踏まえ、検討していくこととした。

■ 主な意見

とく おも いけん
特になし。(討議時間不足のため、次回以降の討議とした。)

午後^ご8時^じ45分^{ぶん}閉会

(以上)